

## 巻頭言 追悼：大垣俊一さん

去る5月8日、大垣俊一さんが忽然と逝去されました。昨年夏に末期の胃癌と診断され、その後ご自宅で過ごされていた矢先のことでした。京都大学瀬戸臨海実験所で大学院生として海洋生物学の研究を始められて以降、海岸生物の生態や保全に関わる研究を精力的に進められ、これからもその成果がさらに花開くところにあっただけに残念でなりません。大垣さんが中心となって出版してきた本誌「Argonauta」（関西海洋生物談話会連絡誌）もまた、大垣さんの研究成果の大きな足跡となっています。

大垣さんは、葬儀は不要というご遺志でした。そのため特に告別式もなく、また特段の公表もないまま現在に至っております。私たちとしては、大垣さんのこれまでの研究活動や社会活動をできるだけ多くの方に共有してもらいたいと考えています。そこで、大垣さんとの研究上交流のあった方に、それぞれの目から彼の研究・社会活動を語っていただくことで、これらを記事とした Argonauta 誌の最終号を発行し、大垣さんを追悼する、ということを考えました。

Argonauta 誌につきましては、談話会のウェブサイト管理者である石田が記事の PDF 化とウェブ上での公開をお手伝いしてきました。大垣さんが余命いくばくもないということをご本人から伺った際、今後の番所崎・畠島調査のあり方や未発表稿の公開などについては遺言を伺いましたが、Argonauta 誌をどうするかについては聞かずじまいでした。ご承知のとおり、Argonauta 誌は大垣さんの思考の場として機能し、生態学に対する俯瞰的な視点を私たちに提供するという役目を果たしていました。お亡くなりになった後、この意義を改めて認識するとともに、Argonauta 誌の今後のあり方を考えてみました。大垣さんの本意がわからない以上、これが正しいという答えは見つからないのですが、一つの解として、追悼号をもって終刊させるという結論を出しました。発行を継続すべきというご意見もあるかもしれませんが、しかし、大垣さんのように生態学者としての確たる信念を持って編集方針を維持できる自信がわれわれ発起人一同にはありません。つまり、大垣さんという Editor を失った以上、Argonauta 誌はその価値を維持できないだろう、という考えに至りました。

このような経緯により、生前交流のあった以下の方々から大垣さんへの追悼文をご寄稿賜り、発起人の追悼文とあわせて、追悼集を編纂いたしました。本号が、研究一筋であった大垣さんの姿を知るよすがとなれば幸いです。

朝倉 彰  
阿部直哉

岩崎敬二  
大塚 攻  
久保田信  
栗原健夫  
黒住耐二  
小菅丈治  
米本憲市  
佐藤路子  
高田宣武  
竹之内孝一  
中村 宏  
宮崎勝己  
大和茂之  
山西良平  
山本智子  
吉岡英二

(五十音順、敬称略)

発起人：

和田恵次（奈良女子大学）

遊佐陽一（同）

石田 惣（大阪市立自然史博物館）